

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成30年9月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。

秋田駒ヶ岳では、火山性地震の増加が時々みられ、2018年2月以降、火山性微動や低周波地震¹⁾が発生していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

また、^{めだけ}女岳では地熱活動が続いていますので、注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは40m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2-②～⑤、図3）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動及び低周波地震は観測されませんでした。

^{おなめだけ}男女岳山頂付近では、2017年8月以降、火山性地震がわずかに増加する傾向が認められています。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況（9月29日06時45分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・赤丸で囲んだ部分が、女岳からの噴気で噴気の高さは40mです。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年10月分）は平成30年11月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）

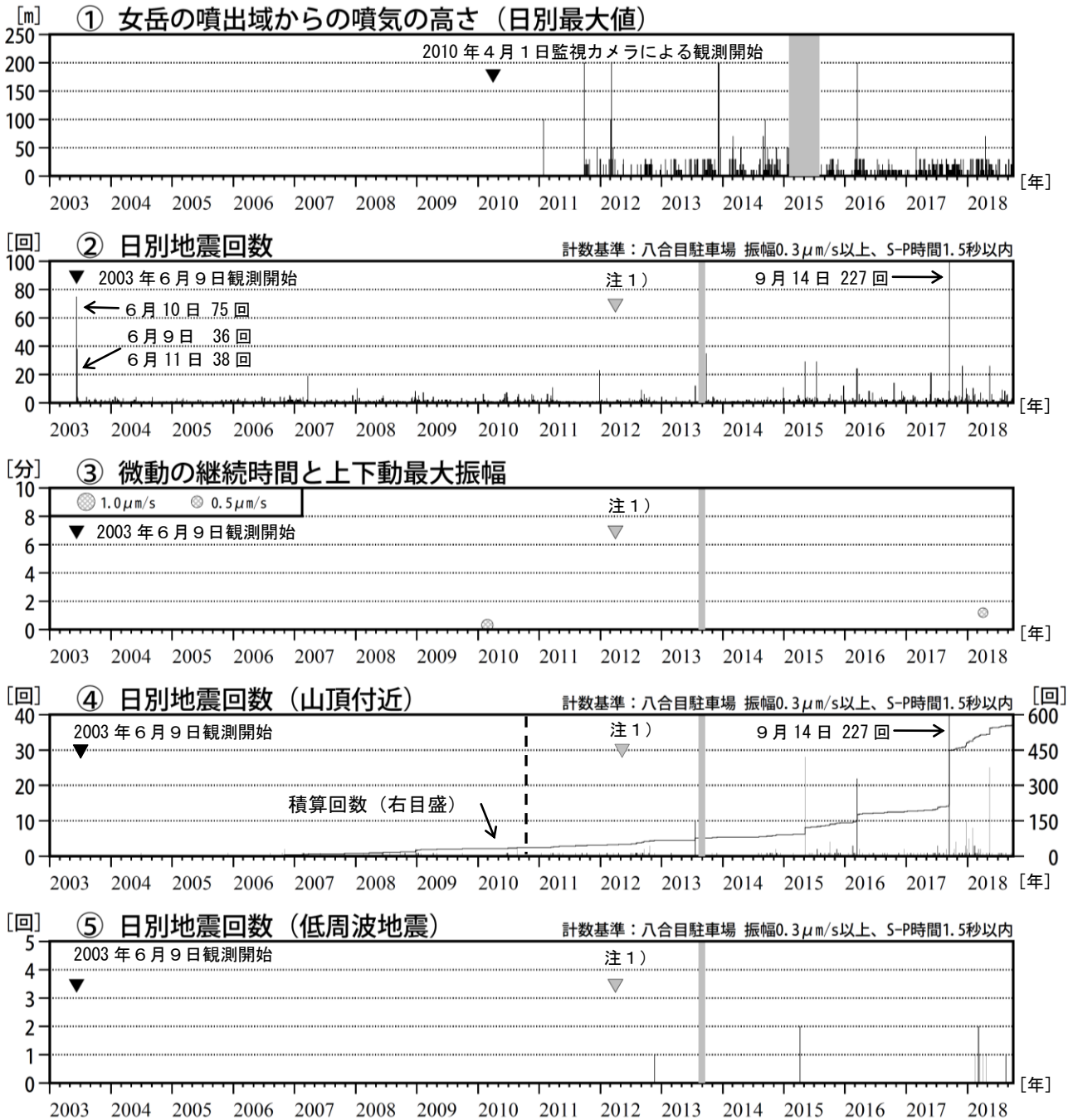


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2018年9月）

- ・①仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
- ・④は計数基準を満たす火山性地震のうち、山頂付近で発生したと推定されるものの回数で、2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、概ね判別できていると考えられます。

注1) 観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

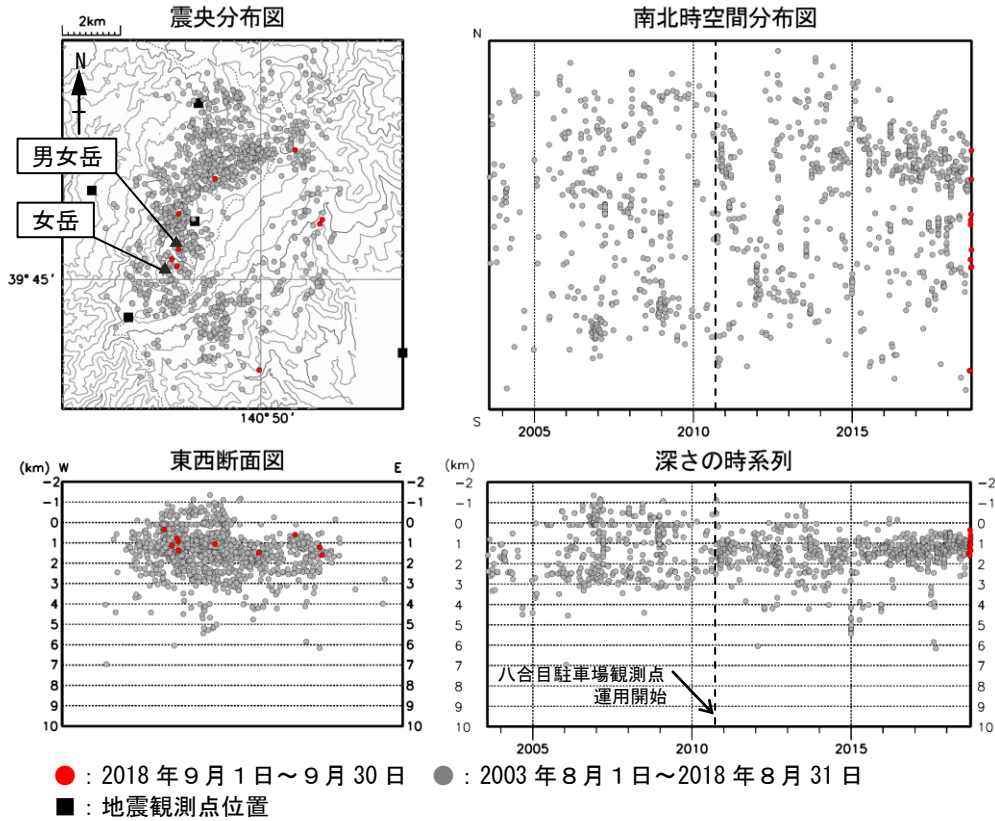


図3 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003年8月～2018年9月）

・2010年10月7日以降、八合目駐車場観測点の運用開始に伴う影響がみられます。

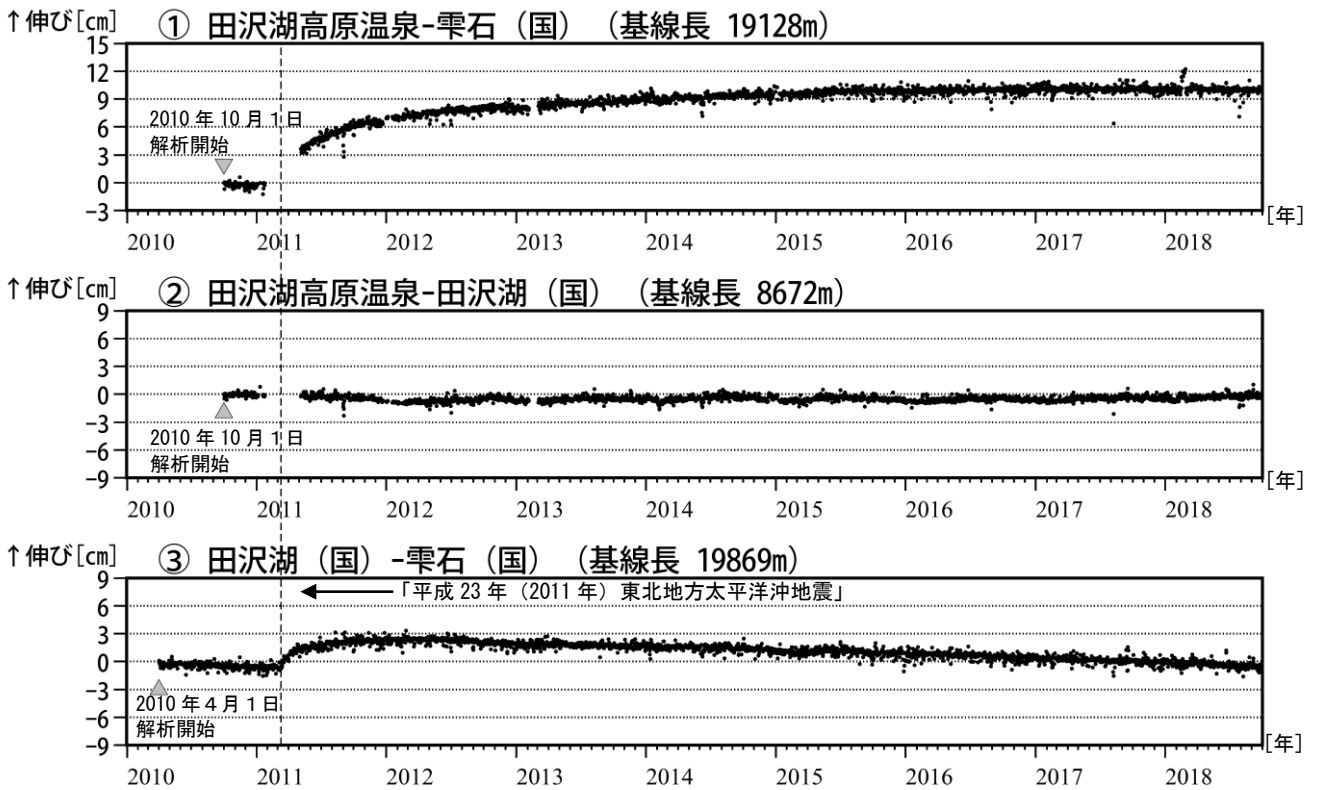


図4 秋田駒ヶ岳 GNSS²⁾ 基線長変化図（2010年4月～2018年9月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～③は図6のGNSS基線①～③に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。

2) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

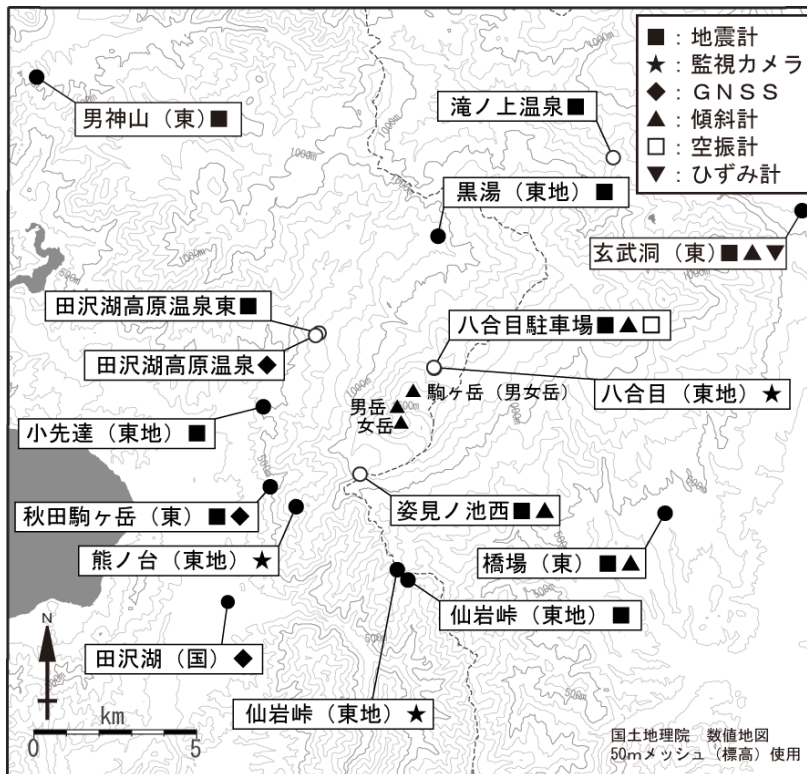


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （国）：国土地理院 （東）：東北大学

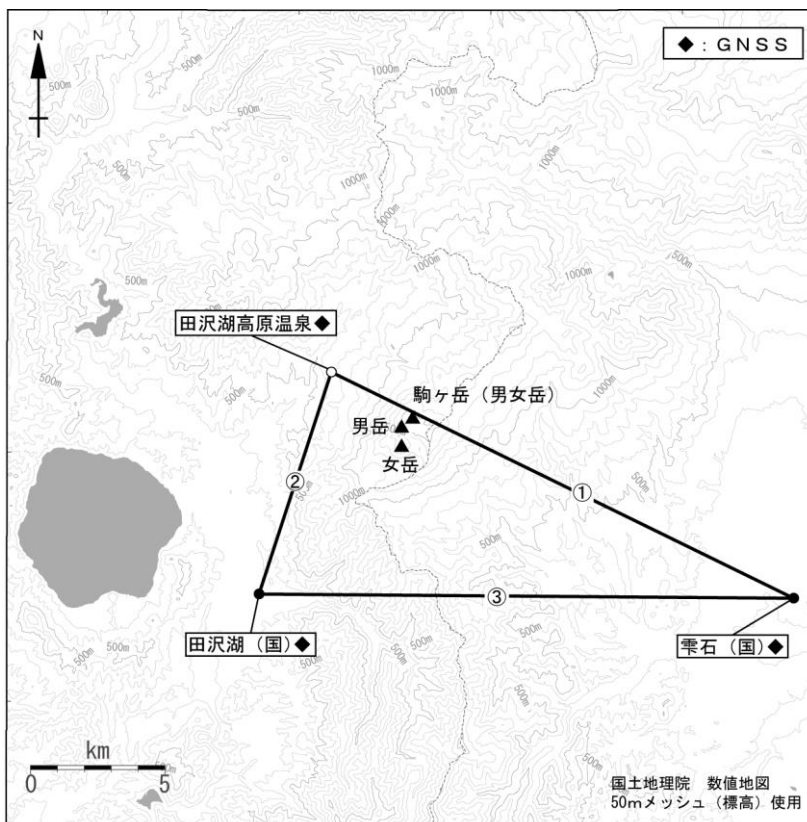


図6 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（国）：国土地理院